

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

保健・福祉・医療分科会における提言

日時	平成21年 7月 9日(木) 18:00 ~ 19:50
場所	高月町役場 4階会議室
議題	地域特性に即した福祉の充実および高齢社会、過疎化が進む地域への対応について
出席者	秋野久子委員、福永利平委員、下坂幸正会長、平塚ひとみ委員、饗場東一委員、山岡孝明委員、押谷喜美子副会長、寺村京子委員、貴野みつ子委員、河路英夫委員
市	事務局 伊藤雅明、勝木明文(福祉) 金森、横井、岩城、伊藤(高齢福祉介護課)
6町	高月町健福課 田中課長、木ノ本町福祉課 松浦課長

《事務局より》

・前回委員会の議事録(要約筆記)内容についての確認…一部の意見あるも了解される。

【協議テーマ】

「地域特性に即した福祉の充実および高齢社会、過疎化が進む地域への対応について」

【地域特性について】

○今回はテーマが長期的が絞れないので、各市町の地域の特性を述べてほしい。

○長浜市…高齢化率21% 多くの観光客が訪れる中心市街地であるが、実は市内で最も高齢化が進行しており、夜は閑散としている状況。このような状況下、広域福祉圏内の介護サービスとして各町と同様に展開している。

○虎姫町…核家族が多い。包括支援センターより住民ネットワークの立ち上げ依頼がある。自立自助の考え方を基に、毎月1日と15日に保健師等と連携してサロン活動が機能している。

○湖北町…比較的若い世代の転入が多いが圏域内移動が実態。ボランティアが多く、有効に機能している背景には社協の力がある。行政、社協の力が地域に根差していると思われる。

○高月町…高齢化率23% 総人口が、平成8年の1万800人をピークに下降している。有力企業の経営厳しい状況下、31集落がサロンに力を入れており、3ヶ圏内で賄えるよう取り組んでいる。経済不況により財政も厳しくなり苦慮しているところである。

○木之本町…高齢化率28.5% 中山間地域であり、次男三男の住む場所がなく衰退している。22のうち3集落が限界集落でトップは61%にもなる。杉野学区の老人保健増進事業調査では、住民は自身の健康や緊急時等における不安を抱えている。病院の数が減少し、病院ができたこともあるかもしれない。また、手助けしてほしい事の一番は、除雪である。

○余呉町…高齢化率32.9% 過疎化が進み限界集落も多く老後に不安を抱えている。

○西浅井町…高齢化率30.2% 月出集落は世帯数減少している。菅浦地区などでは、農機具会社の農村家庭工場において80歳定年制が敷かれており元気な高齢者を目指している。

反面、高齢で退職すると体調を崩すケースがある。

○各町からの意見を出してもらった。各町とも高齢化、過疎化、限界集落、定住問題など抱えている様々な課題が見えきた。今度は住民代表から意見を述べてください。

【住民代表の意見】

○余呉の住民は、除雪支援事業を心配している。道路の除雪は行政が対応してくれるが、家から道路までの除雪が心配である。自分たちで出来ることはしていかななくてはならないが、限界集落への応援(3泊4日)ワークボランティアの応援があるとありがたい。

○神照町では800世帯ほどあり、独居多いので声かけ隊、見守り隊の制度定着を呼びかけて

も隣近所の顔を知らないため警戒され、中にはプライドを傷つけられたといったケースもあり気をつけなければならない。1組が20軒以上の組単位で声かけ隊を呼びかけて、（個人情報に配慮して）、揃いのジャンパーや証明用名札を付けて何うようにしており、誰でも良いという訳にいかない。合併後の郡部の方は、中央集中になるのが不安で年寄りの介護を心配している。金太郎飴のようにどこでサービスを受けても同じになるよう前もって考えておいてほしい。○福祉は、身近な地域で顔の見えるサービスが必要。身近に集える場所があれば良い。住民の力と公の力が必要な中で、今はボランティアが多く、サロン活動も活発化しているのは社協の力が大きい。今のサービスを持続してほしい。（転入が多いと話したが、）若い人が住みたいと思える地域にしていけると良い。「住んでよかったと思える地域づくりが必要」

【住民に選ばれている議員方の意見】

- 高齢社会の各町の状況を議員の委員からお願いします。
- 西浅井では近所の方が様子を見に行くことが多く、除雪なども地域の力で行っており、雪の多いときには役場からの依頼も受けた。また、各家から通りまでの除雪がたいへんで、幹線道路以外は区の役員がすることが多い。地域が助け合える体制を残していくことが必要。またバスの交通体制が不十分で、車に乗れない人にとって停留所が遠いことが課題。
- 国・県の施策とは別に考えるべきだと思う。誰もが生まれたところがいちばんいい。転倒予防教室などもあるが、いかに地域で見守っていくかが大事。介護の支援制度や安心して暮らせる地域づくり、支え合う仕組みづくりが大事だと思う。
- 地域の特性は大きく違う。本来、合併によるスケールメリットにより効率行政推進が求められる。要は、金は使わず、知恵を絞って、負担を低くして幸せを実感できる仕組みを考えることが大事だ。在宅福祉にしる介護保険にしる高齢化は全地域進んでいる。子どもを増やすしか手はない中で、年寄りのできる地場産業や農業を確保していく取り組み等により元気な年寄りが多くなることが大事。介護サービスに期待する考え方は転換が必要。
- 社協、シルバー、ボランティアなど住民が自ら行っていく時代と思っている。いままで、役場が近くにあったが、今後は、自分の力や地域の力で活動していかなければならない。自治会組織や町づくりが大事である。
- 住民ネットワークなどを立ち上げてほしい。自分の地域は自分で守っていくことが必要。月2回サロンを行うことにより老人の体の具合等調子が分かることがある。サロン活動が活発だが、合併後を心配している。
- 自助・共助・公助、行政各団体と連携して活動してもらっている。合併後もこのようなサービスを続けてほしい。

【意見を踏まえて】

- 皆さんの意見を集約すると、除雪や住民サービスなど合併後を心配する意見があるが、自分の身は自分で守りつつ、いいものが合併で失われないように良いところを生かした施策として議員さん方にしっかり考えてやっていただきたい。
- 警察の依頼を受けて30数年間検死をしているが、週に1回の割合であり、そのほとんどが年寄りの孤独死。中には、民生委員が声をかけても放っておいてくれと言われていたようなケースもある。知らない間に死んでいて、ほとんど腐りきった人ばかり。昔は、自殺・事故死が多かったが、近年、孤独死が8～9割を占めている。きめの細かい施策で落ちこぼれないようにしてほしい。身近に94歳で一人住まいの方がおり、いつ死ぬかわからん。昔の「向こう三軒両隣」のような制度があるといいと思う。雇用があれば若い人が残る。「吸収」は使わず、独自性を尊重してしてほしい。
- 旧びわは頑張っている。セルフサポートサービス…自分で出来ることはやって、あとの一人で出来ないことは任せてくれといったことをやっている。吸収ではあるが人と人とは対等合併、教を乞うところは乞うて、良いところへ向かうべき。サロン活動という言葉を知った。一人ひとりが知るべき。また避難訓練が毎年あるが、誰が見るのか考えてほしい。
- 年寄りを外へ引っ張り出す取り組みが大事。ある個人開業医は待ち合い室を地域へ開放している。推計によると、滋賀県では平成25年まで年寄りが増えていく。高齢者に目を光らせて

おくネットワークが大事。

○地域リーダーがいるいないがある。リーダーのいるところは進んでいる。行政が仕組みを知らせサポートするようなことをやってほしい。費用対効果の効果が上がる仕組みづくりが要る。

1月1日から町民も市民になる。権利や義務は同じ。除雪についても同じ。サポート、情報発信していかないと地域格差が生じる。取り残しをやってはいけないので十分気をつけてほしい。

○自治会を単位に。受益者負担をし、不足するところを行政に補ってもらうべき。

自治会、サロン、住民ネット、きめ細かいサービスにより老人不安をなくしてほしい。また、独自性を残して行政に活かしていただきたい。また、民生委員は努力しているが、なかなか本人同意が得られない。

=その他=

●次回日程とテーマ

- ・ 次回日程 8月20日（木） 18:00～
- ・ 次回開催場所 「高月町役場」4F会議室
- ・ 次回テーマ 「しょうがい者・児福祉の充実について」